授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
コミュニケーション	演習・講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科１年　　前期　後期　通年	４０回　８０時間

［担当教員および実務経験］

白倉　啓子

（高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）

［授業の目的］

コミュニケーションは対人関係の基本であることから、講義や演習を通して、その知識や技術を学び、自分の考えを表現する方法、良好な人間関係の築き方などのスキルを身に付けることを目的とする。また、良好なコミュニケーションの環境について学び、福祉コミュニケーションの観点から、対象者の理解等を深め、実践できるようになることを目的とする。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、主としてグループワーク等のアクティブラーニング手法を使ったコミュニケーション演習を実施し、内容を修得する。また、演習の前後にテキストやプリントを用いた講義で補足を行うことで、内容の理解を促進する。

［授業の到達目標］

（前期）

・コミュニケーションの定義を説明し、その必要性を言葉にできる。
・１対１でのコミュニケーション（対話）を図ることができる。
・コミュニケーション力をアップさせるための演習をグループで企画し、実際の演習を通して、コミュニケーション力をアップさせることができる。
・トータルコミュニケーション（言語・準言語・非言語）を説明できる。
・コミュニケーションがうまくいかない原因を検討し、改善すべき点を提案できる。

（後期）

・屋外と屋内のコミュニケーションの違いを説明できる。
・人数の違いに応じたコミュニケーション環境を提案できる。
・傾聴、受容、共感の意味を把握し、実践できる。
・より良い人間関係の築き方を提案できる。
・１年間の振り返りと２年目の目標を、自分の言葉で３分間にまとめて話すことができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、期末考査（筆記試験・実技試験）を実施する。

・平常点(25%)

・指定された課題を期限までに実施し、その内容が適切である。

・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

なし

［備考］

［授業計画(内容)］	
1	前期オリエンテーション（コミュニケーションとは）
2	１対１のコミュニケーション演習～全員と総当たり～（１）
3	１対１のコミュニケーション演習～全員と総当たり～（２・３）
4	１対１のコミュニケーション演習～全員と総当たり～（４・５）
5	１対１のコミュニケーション演習～全員と総当たり～（６・７）
6	１対１のコミュニケーション演習～全員と総当たり～（８・９）
7	１対１のコミュニケーション演習～全員と総当たり～（10・11）
8	１対１のコミュニケーション演習～全員と総当たり～（12・13）
9	１対１のコミュニケーション演習～全員と総当たり～（14・15）
10	１対１のコミュニケーション演習～全員と総当たり～（16・17）
11	１対１のコミュニケーション演習（まとめ：他者理解とは）
12	コミュニケーションの定義
13	自己理解を深める（自己分析ワーク）
14	コミュニケーション演習企画・立案・事前準備
15	コミュニケーション演習発表会（コミュニケーション力アップ）Ａ・Ｂ
16	コミュニケーション演習発表会（コミュニケーション力アップ）Ｃ・Ｄ
17	コミュニケーション演習発表会（コミュニケーション力アップ）Ｅ・Ｆ
18	コミュニケーション演習発表会（コミュニケーション力アップ）Ｇ・Ｈ
19	コミュニケーション演習発表会（コミュニケーション力アップ）Ｉ、まとめ
20	トータルコミュニケーション①（言語・非言語）
21	トータルコミュニケーション②（準言語）
22	コミュニケーションの要素
23	コミュニケーションがうまくいかない原因
24	印象を規定する要因
25	前期のまとめ（前期期末考査対策）
26	後期オリエンテーション（前期の復習）
27	屋外と屋内のコミュニケーションの違い
28	人数の違いによるコミュニケーションの効果・環境①

29	人数の違いによるコミュニケーションの効果・環境②
30	傾聴の方法・演習（アクティブリスニング）
31	受容の方法・演習
32	共感の方法・演習
33	人間関係とコミュニケーション①（自己分析）
34	人間関係とコミュニケーション②（自己開示）
35	人間関係とコミュニケーション③（フィードバック）
36	総合演習（１年間の振り返りと２年目の目標～３分間スピーチ～）①
37	総合演習（１年間の振り返りと２年目の目標～３分間スピーチ～）②
38	総合演習（１年間の振り返りと２年目の目標～３分間スピーチ～）③
39	総合演習（１年間の振り返りと２年目の目標～３分間スピーチ～）④
40	後期のまとめ（後期期末考査対策）

授　業　計　画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	
Ｗｏｒｄ実習	実習	必修　選択
[対象学科・学年・時期]		[授業回数・時間数]
社会福祉科１年　　前期　後期　　通年		２８回　５６時間

[担当教員および実務経験]

織田島　順子

一般企業にて営業事務、社会保険事務に従事し、書類作成などを担当。

[授業の目的]

企業団体の事務作業で必須であるパソコンの操作について、一般的な文書処理ソフトウエアとしてマイクロソフト社の『Ｗｏｒｄ』の操作を習得する。操作習得の証明として、日検ワープロ検定の取得を目指す。

[授業の方法および概要]

・Ｗｉｎｄｏｗｓの基本的操作方法について操作しながら習得する。
・Ｗｏｒｄの操作方法についての習得。段階を踏み操作しながら習得する。
・文書作成練習の実施により操作を習熟する。（検定対策も兼ねる）

[授業の到達目標]

・Ｗｉｎｄｏｗｓの基本的な操作ができる。
・Ｗｏｒｄについて、以下の操作ができる。
・文書データの読み込み・保存(新規保存、上書き保存、保存先を変えた保存)、印刷
・文書のページ設定（行数、１行あたりの文字数）
・文字入力（漢字変換)、文字および文字列の修飾
・作表、図表の挿入

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・実技試験（文書作成）により期末考査を実施する。
・平常点(25％)
　・事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。
　・授業に積極的に参加し、周囲と協力しながらお互いの技能向上を目指している。

[使用テキスト・参考文献]

・実教出版編集部編『３０時間でマスター　Ｗｏｒｄ２０１３』実教出版、2014年
・日本情報処理検定協会編『日本語ワープロ検定試験　過去問題集』日本情報処理検定協会、2022年

[備考]

日検ワープロ検定の受験級は学生が自身の能力に合わせた級を選択する。

［授業計画（内容）］	
1	Ｗｉｎｄｏｗｓの概要および操作の基本、タイピングの基礎
2	Ｗｏｒｄの操作①（文字入力、漢字変換）
3	Ｗｏｒｄの操作②（タイピング練習①）
4	Ｗｏｒｄの操作③（タイピング練習②）
5	Ｗｏｒｄの操作④（改行、カット＆ペースト）
6	Ｗｏｒｄの操作⑤（タイピング練習③）
7	ワープロ検定３級過去問題の試行
8	Ｗｏｒｄの操作⑥（タイピング練習④）
9	Ｗｏｒｄの操作⑦（表の作成①検定３級レベル）
10	Ｗｏｒｄの操作⑧（表の作成②検定２級レベル①）
11	Ｗｏｒｄの操作⑨（表の作成②検定２級レベル②）
12	Ｗｏｒｄの操作⑩（表内文字の折り返し、罫線種の変更）
13	ワープロ検定準２級過去問題の試行
14	過去問題答練（第131回）
15	過去問題答練（第130回）
16	過去問題答練（第129回）
17	過去問題答練（第128回）
18	過去問題答練（第127回）
19	過去問題答練（第126回）
20	過去問題答練（第125回）
21	過去問題答練（第124回）
22	過去問題答練（第123回）
23	過去問題答練（第122回）
24	過去問題答練（第121回）
25	過去問題答練（第120回）
26	過去問題答練（第119回）
27	過去問題答練（第118回）
28	過去問題答練（第117回）

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
学習指導	講義・演習	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　　前期　後期　通年	３１回　６２時間

［担当教員および実務経験］

白倉　啓子

（高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）

［授業の目的］

日々の振り返りを実施することで、将来、社会人となるにあたって必要な基本的なマナーやコミュニケーション、スケジュール管理等、自分自身で管理できるようになることを目的とする。

［授業の方法および概要］

到達目標に従い、それぞれ主体的・実践的な学習を行う。

・フォーサイト手帳を使用した日々のスケジュール管理・振り返り

・１週間で学習した授業内容のまとめ・報告・発表

・グループワークを通したコミュニケーション能力の向上

［授業の到達目標］

・フォーサイト手帳を使用した日々のスケジュール管理・振り返りを継続することで習慣化できる。

・１週間で学習した授業内容を紙にまとめ、報告・発表することができる。

・積極的なグループワーク参加を通して、コミュニケーション能力の向上を図ることができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)

　・授業内での課題・提出物・レポート等を得点化する。

・平常点(25％)

　・授業に積極的に参加し、周囲と関わりながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・『フォーサイト手帳ベーシック版2022』を、スケジュール管理・振り返りで使用する

［備考］

［授業計画(内容)］	
1	前期オリエンテーション・目標設定（4/11～4/15）
2	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（4/18～4/22）

3	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（4/25～28）
4	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（5/9～5/13）
5	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（5/16～5/20）
6	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（5/23～5/27）
7	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（5/30～6/3）
8	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（6/6～6/10）
9	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（6/13～6/17）
10	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（6/20～6/24）
11	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（6/27～7/1）
12	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（7/4～7/8）
13	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（7/11～7/15）
14	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（7/19～7/22）
15	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（8/22～8/26）
16	前期の振り返り（8/29～9/2）
17	後期オリエンテーション・目標設定（9/26～9/30）
18	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（10/3～10/7）
19	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（10/11～10/14）
20	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（10/17～10/21）
21	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（10/24～11/4）
22	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（11/7～11/11）
23	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（11/14～11/18）
24	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（11/21～11/25）
25	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（11/28～12/2）
26	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（12/5～12/9）
27	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（12/12～12/16）
28	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（12/19～12/23）
29	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（1/10～1/13）
30	１週間の授業内容のまとめ振り返り・スケジュール管理（1/16～1/20）
31	後期の振り返り（1/23～1/27）

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
キャリアデザインⅠ	講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　　前期　後期　通年	３０回　６０時間

［担当教員および実務経験］

田家　愛

一般企業にて販売促進・広報業務、就職支援業務に従事

［授業の目的］

自分の得意不得意を理解し、自分が望むキャリアを自ら切り拓いていくために、情を収集して分析する力、他者に伝える力、課題を発見し解決する力を養う。その中で社会への関心を深め、働くことのやりがいや職種理解を深めることで、キャリアプランの実現に向けた選択行動がとれるようになることを目的とする。

また、演習をとおして社会で必要不可欠なビジネスマナーを修得し、他者を受容しながら自分を理解してもらうアサーティブなコミュニケーション能力を身につける。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義・演習を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。

［授業の到達目標］

１．キャリアデザインの重要性を理解できる
２．自分自身を客観的にとらえ、自分の得意不得意を理解できる
３．これまでの社会環境、これからの変化について説明できる
４．社会で必要なビジネスマナーを実践できる
５．情報を収集し分析し、他者に伝え、課題を発見し解決することができる
６．アサーティブなコミュニケーションを実践できる

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と強調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

・働き方の哲学（ディスカヴァー・トゥエンティワン、村山昇、2018年）
・10歳でもわかる問題解決の授業（フォレスト出版、苅野進、2017年）
・知らないとハズカシイおとなのビジネスマナー（日本実業出版社、西出博子）
・アサーション・トレーニング（金子書房、平木典子、2009年）

［備考］

なし

［授業計画(内容)］	
1	・オリエンテーション ・キャリアを考える必要性、時代背景 ・キャリアデザインとは
2	・今日のトピックス ・キャリアレインボウ、キャリアビジョン ・4年間のスケジュール ・価値観ワーク
3	・今日のトピックス ・SNSの注意点について
4	・今日のトピックス ・ビジネスマナー（遅刻、欠席） ・電話応対課題
5	・今日のトピックス ・ビジネスマナー（メールのやり取り）
6	・今日のトピックス ・ビジネスマナー（訪問時のマナー、名刺）
7	・今日のトピックス ・ケーススタディ（訪問時のマナー、クレームの対応、アサーション）
8	・今日のトピックス ・社会人に求められる能力 ・学生と社会人の違い
9	・今日のトピックス ・コミュニケーション能力とは
10	・今日のトピックス ・気づきのワーク（10年後の生活） ・ストレスポイントのワーク（もっと〇〇を考える）
11	・今日のトピックス ・課題解決思考
12	・今日のトピックス ・高校までの振り返り
13	・今日のトピックス

	・職業興味（VRTカード）
	・社会人インタビュー①　課題説明
14	・今日のトピックス
	・社会人インタビュー②　発表
15	・前期期末考査
16	・社会人インタビュー③　取材
	クラスメイトの調べた職種について調べる
17	・社会人インタビュー④　発表
	・仕事理解①　課題説明
	自分が気になる職場を選ぶ　職場について調べる
18	・仕事理解②　職場調べ、アポイント
	・ビジネスマナー（アポイントの取り方、封筒の書き方、お礼状の書き方）
19	・仕事理解③　取材実施
20	・仕事理解④　お礼状作成
	取材内容をまとめ、動画にする
21	・仕事理解⑤　動画まとめ①
22	・仕事理解⑥　動画まとめ②
23	・仕事理解⑦　動画まとめ③
24	・仕事理解⑧　発表
25	・仕事理解⑨　動画修正、アンケート作成
26	・傾聴トレーニング①
27	・傾聴トレーニング②
28	・自己理解①　人生すごろく①
29	・自己理解②　人生すごろく②
30	・後期期末考査

授　業　計　画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	
ソーシャルアクション	講義・演習	必修　選択

[対象学科・学年・時期]	[授業回数・時間数]
社会福祉科１年　　前期　後期　通年	６０回　１２０時間

[担当教員および実務経験]

白倉　啓子

（高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）

[授業の目的]

１．ソーシャルアクションとは何かを自分の言葉で分かりやすく説明できるようになる

２．実際の活動を通して、ソーシャルアクションに必要な知識・技術、プロセス（過程）を身に付ける

３．学内はもちろん、外部の人達との関わりを通じて、視野を広げるとともに、協調性を身に付ける

４．社会に出た時に即戦力となれるように、自己の成長、チームの成長につなげる

５．継続的な活動につなげていけるように、創意工夫をできるようにする

[授業の方法および概要]

１．コロナ禍での継続的な実施を目指すために、今年度はクラス単位での動き（横のつながり）を中心に進めていく

・社会福祉専攻科２年（SP2）⇒ アドバイザー

・社会福祉専攻科１年（SP1）⇒ 実践：３年目（上級）

・社会福祉科２年（SY2）⇒ 実践：２年目（中級）

・社会福祉科１年（SY1）⇒ 実践：１年目（初級）

２．イフ１号館を拠点としての活動をメインとして計画を進める（外部への出向もOK）

３．各クラスでの動きを報告しあい、アドバイスしあう経験を授業内で積み重ね、４学年の縦のつながりも形成する

[授業の到達目標]

１．楽しみながら活動することができる

２．チームメンバーや周囲の人達との協力を大切にすることができる

３．自主性・主体性・積極性を発揮することができる

４．報告・連絡・相談を確実に行い、許可が出てから動き出すことができる

５．無理をせず、できることから取り組むことができる

６．振り返り（自己評価）を大切にして、次につなげることができる

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。

・考査点(75％)

・到達目標の修得状況を測るために、毎回の授業の振り返りレポートを点数化する。

・平常点(25%)
　・指定された課題を期限までに実施し、その内容が適切である。
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

[使用テキスト・参考文献]

・ソーシャル・アクション　ハンドブック作成チーム編『Social Action Handbook（ソーシャル・アクション ハンドブック）-テーマと出会い・仲間をつくり・アクションの方法を見つける39のアイデア』開発教育協会、2017年

[備考]

・準備や実践のスケジュール等の詳細は、グループにより異なる可能性あり。

[授業計画(内容)]

1～2	前期オリエンテーション ～課題作成～
3～4	学科交流会～ソーシャルアクション導入～ SP1企画・運営の実践
5	課題作成発表会
6	前期ソーシャルアクション課題設定
7～8	ソーシャルアクション企画（グループワーク）
9～10	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第１クール①－１）
11～12	ソーシャルアクション実践・振り返り（第１クール①－２）
13～14	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第１クール②－１）
15～16	ソーシャルアクション実践・振り返り（第１クール②－２）
17	前期中間報告会準備
18	前期中間報告会
19～20	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第２クール①－１）
21～22	ソーシャルアクション実践・振り返り（第２クール①－２）
23～24	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第２クール②－１）
25～26	ソーシャルアクション実践・振り返り（第２クール②－２）
27～28	前期の振り返り・まとめ・報告会準備
29～30	前期報告会
31	後期オリエンテーション
32	後期ソーシャルアクション課題設定
33～34	ソーシャルアクション企画（グループワーク）
35～36	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第３クール①－１）
37～38	ソーシャルアクション実践・振り返り（第３クール①－２）
39～40	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第３クール②－１）
41～42	ソーシャルアクション実践・振り返り（第３クール②－２）
43～44	ソーシャルアクション実践・振り返り（第３クール③）
45	後期中間報告会準備

46	後期中間報告会
47～48	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第４クール①－１）
49～50	ソーシャルアクション実践・振り返り（第４クール①－２）
51～52	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第４クール②－１）
53～54	ソーシャルアクション実践・振り返り（第４クール②－２）
55～56	ソーシャルアクション実践・振り返り（第４クール③）
57～58	後期の振り返り・まとめ・報告会準備
59～60	後期報告会

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］ 社会福祉の基礎	［授業形態］ 講義	必修　選択
［対象学科・学年・時期］ 社会福祉科　１年　　前期　後期　通年	［授業回数・時間数］ １５回　３０時間	

［担当教員および実務経験］

圓山　里子

障害当事者団体（NPO法人）にて職場介助者及び事務局スタッフとして勤務。障害者サポートの市委託事業において事業開設スタッフとして勤務。四年制大学の社会福祉士養成コースにおいて専任教員として勤務。

［授業の目的］

社会福祉を各分野の概観からながめるのではなく、各分野に通じる基盤を「つかむ」ことによって、今後、社会福祉各科目を学ぶ上での基礎をつくる。

［授業の方法および概要］

テキスト及びプリントを中心に講義を行う。期間中間で１度「確認テスト」を実施し、知識の定着及び期末考査対策へと結びつける。

［授業の到達目標］

・社会福祉は社会福祉実践（援助論）と社会福祉政策（政策論）から構成されていることを理解する。
・現代社会における生活を支える仕組み（家族・市場・社会サービス）のなかで、社会福祉はどのように位置づけられるのかを理解する。
・福祉国家形成の歴史及び日本の社会福祉のあゆみを理解する。
・社会福祉政策の運営の基本的な仕組みや考え方を、対象・方法・提供主体の側面から理解する。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)　到達目標の修得状況を測るために筆記試験により期末考査を実施する。
・平常点（10％）　授業に積極的に参加し周囲と強調しながら自らの向上を図っている。
・出欠点（15％）　欠席する毎に点数を引いていく。

［使用テキスト・参考文献］

・稲沢公一・岩崎晋也『社会福祉をつかむ　第３版』有斐閣、2019年（初版2008年）

［備考］

なし

［授業計画（内容）］	
1	社会福祉の２つの構成（社会福祉政策と社会福祉実践）と福祉活動の特徴
2	社会政策とは何か
3	社会福祉の補充性と固有性
4	福祉国家の形成①
5	福祉国家の形成②
6	福祉国家の形成③
7	福祉国家はどこへ行くのか
8	日本の社会福祉のあゆみ①
9	日本の社会福祉のあゆみ②
10	確認テストと中間まとめ
11	社会福祉の対象と社会的必要性（ニーズ）
12	社会福祉の行財政
13	社会福祉の供給体制
14	社会福祉の担い手
15	まとめ
	考査

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	
高齢者の福祉	講義	必修　選択
［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］	
社会福祉科　１年　前期　後期　通年	１４回　２８時間	

［担当教員および実務経験］

砂井 一哉

特別養護老人ホーム及びケアハウスにおいて施設長（園長）として勤務

［授業の目的］

高齢者の身体的・精神的傾向とそれを取り巻く環境を理解することを通じて、高齢者と関わること及び支援するために必要な基礎的知識を学ぶ。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク・演習等も交えながら、内容の理解を深める。また確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。

［授業の到達目標］

１．介護保険制度がなぜ必要なのか説明できる。
２．老化に伴う心身の変化及び疾病に関する基本的知識を覚える。
３．高齢者の支援を行う際の基本的理念（自立支援、ノーマライゼーション等）について説明することができる。
４．高齢者との関わり方（コミュニケーション）の基本的知識を身に付ける。
５．認知症ケア、看取りケアについてその概要を把握できる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と強調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

黒澤貞夫等編集『介護職員初任者研修テキスト【第1巻】介護のしごとの基礎（第2版』中央法規出版、2018

［備考］

なし

［授業計画（内容）］	
1	オリエンテーション
2	高齢者制度の理解①
3	高齢者制度の理解②
4	高齢者制度の理解③
5	老化の理解
6	確認テスト
7	老化の理解
8	介護における尊厳の保持・自立支援
9	介護の基本①
10	介護の基本②
11	認知症の理解
12	介護におけるコミュニケーション技術
13	看取りの理解
14	期末考査

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
レクリエーション	講義と演習	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　前期　後期　通年	１４回　２８時間

［担当教員および実務経験］

早川　武志

高齢者施設にて介護職員・介護支援専門員として勤務

［授業の目的］

介護や障害のサービスを利用して生活をしている方々にとって、余暇活動を充実させることが生活の質の向上へとつながること、また、身体機能の向上にもつながり得ることを理解することができる。

利用者ニーズを把握し、余暇活動を充実させる適切な方法を身につけることができる。

［授業の方法および概要］

実例を基とした高齢者施設での利用者および職員の様子についての講義を通して理解する。実際に施設で生活している利用者と手紙やオンラインなどの手法を使い、コミュニケーションを図る方法を学ぶ。

［授業の到達目標］

余暇活動の充実が高齢者施設で生活する高齢者の生活に与える影響を体験する。

感染対策という制限下における余暇活動充実の方法を身につける。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通基準による絶対評価を行う。

考査点（75%）・平常点（15%）・出席点（10%）

［使用テキスト・参考文献］

なし

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	みなさん、高齢者施設ってどんなイメージ？
2	このみちを選んでくれてありがとう！だから仲間を知ろう（早川も含めて）
3	レクリエーションの本質を知ろう
4	レクリエーションの本質をグループで協力して発表しよう。 オリジナル手紙入れ（封筒）を作成しよう（オリジナルですので、自分で調べて作成してください。）
5	期末考査の答えを教えます！みんなで意味を調べてください。でも、条件があり

	ます。その意味を理解することです。
6	アイスブレイクを理解してグループで構成してみよう
7	高齢者が昔馴染みのある歌を手話で表現してみよう
8	レクリエーション計画を作成しよう
9	学校内でリモートレクリエーションを体験してみよう
10	施設のご利用者とオンラインでレクリエーションを実践する。みなさんいよいよ本番ですよ！グループの練習の成果をみせよ！①
11	施設のご利用者とオンラインでレクリエーションを実践する。みなさんいよいよ本番ですよ！グループの練習の成果をみせよ！②
12	施設のご利用者とオンラインでレクリエーションを実践する。みなさんいよいよ本番ですよ！グループの練習の成果をみせよ！③
13	グループ発表（ふりかえり）
14	期末考査

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
施設体験	実習	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科１年　　通年	３０回　６０時間

［担当教員および実務経験］

渡辺　康子
病院・高齢者施設において介護職員として 11.5 年勤務

［授業の目的］

福祉施設を訪問し、実際に利用者と関わる中で、福祉施設の概要・実態を直接的に学び、ソーシャルワーカーに必要となる知識・技術・実践力を身に付けることを目的とする。前期は高齢者福祉施設、後期は障害者福祉施設での体験を行うことにより、施設種別の違いを理解し、自身の就職先・進路を考えるきっかけづくりをする。

［授業の方法および概要］

実際に福祉施設を訪問する中で、到達目標に沿って、施設の概要・実態、利用者の状況を理解する。また、訪問の前後に計画・報告（振り返り）を行うことで、自身の到達度の把握・理解を促進する。

［授業の到達目標］

・体験先の福祉施設の概要を説明できる。
・体験先の福祉施設の利用者の状況（心身状態、生活環境等）を説明できる。
・体験先の利用者１名を選定して、ソーシャルワーカーとしての関わり方やケアの方法等を提案できる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が 80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。
・考査点(75％)
　・施設体験前後に計画書・報告書を提出し、その内容を得点化する。
・平常点（10％）　授業に積極的に参加し周囲と強調しながら自らの向上を図っている。
・出欠点（15％）　欠席する毎に点数を引いていく。

［使用テキスト・参考文献］

なし

［備考］

［授業計画(内容)］	
1	前期オリエンテーション（体験先の情報把握、計画書・報告書の作成方法等）
2～3	施設体験訪問①（施設概要の理解）
4～5	施設体験訪問②（施設職員の理解）
6～7	施設体験訪問③（ソーシャルワーカーの役割の理解）
8～9	施設体験訪問④（施設種類による概要の違いの理解（デイサービス））
10～11	施設体験訪問⑤（施設種類による概要の違いの理解（ショートステイ））
12～13	施設体験訪問⑥（施設種類による概要の違いの理解（グループホーム））
14	前期の振り返り（報告会準備）
15	前期：施設体験報告会（高齢者福祉施設）
16	後期オリエンテーション（体験先の情報把握、計画書・報告書の作成方法等）
17～18	施設体験訪問⑦（障害者福祉施設（身体障害者施設））
19～20	施設体験訪問⑧（障害者福祉施設（精神・知的障害者施設））
21～22	施設体験訪問⑨（障害者福祉施設（放課後等デイサービス））
23～24	施設体験訪問⑩（障害者福祉施設（就労移行支援事業所））
25～26	施設体験訪問⑪（障害者福祉施設（就労継続支援A型事業所））
27～28	施設体験訪問⑫（障害者福祉施設（就労継続支援B型事業所））
29	後期の振り返り（報告会準備）
30	後期：施設体験報告会（障害者福祉施設）

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	
障がい者の福祉	講義	必修　選択

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　１年　　前期　後期　通年	１８回　３６時間

［担当教員および実務経験］

圓山　里子

障害当事者団体（NPO法人）にて職場介助者及び事務局スタッフとして勤務。障害者サポートの市委託事業において事業開設スタッフとして勤務。四年制大学の社会福祉士養成コースにおいて専任教員として勤務。

［授業の目的］

障害の社会モデルを障害者福祉の理念や概念が生まれた過程を辿りつつ、その理念の実現を目指す日本の障がい者福祉に関わる制度・施策を学ぶ。

［授業の方法および概要］

授業前に事前課題を課し、授業内容への関心を高め、基礎的事項を確認する。授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。

［授業の到達目標］

１．障害の社会モデルの視点から障害者権利条約及び障害者差別解消法に規定されている合理的配慮について関係を説明できる。
２．ノーマライゼーションの定義及びその限界（実際）を指摘できる。
３．障害者の生活支援における留意点をあげることができる。
４．セルフヘルプグループと専門職の役割を説明することができる。
５．障害者総合支援法に関わるサービスの基本的事項を覚えることができる。
６．障害者の生活を支える施策・制度を列挙することができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75％)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。
・平常点(25％)
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

山下幸子・竹端寛・尾﨑剛志・圓山里子,『新・基礎からの社会福祉④ 障害者福祉 第3版』,ミネルヴァ書房,2020年.

［備考］

なし

［授業計画（内容）］	
1	「障害」の社会モデルと合理的配慮
2	「障害者」とは誰のことか：「障害」の定義をめぐって、国際生活機能分類
3	障害者福祉の思想・理念（ノーマライゼーションなど）
4	様々な機能障害の理解と生活支援の留意点
5	障害分野のソーシャルワーク①：専門職による援助
6	障害分野のソーシャルワーク②：当事者活動、エンパワメントとアドボカシー
7	障害者福祉の歴史的展開①：戦後の制度史
8	障害者福祉の歴史的展開②：戦後の障害者運動
9	障害者総合支援法①
10	障害者総合支援法②
11	障害者総合支援法③
12	障害者の生活を支える施策①：障害者基本法など
13	障害者の生活を支える施策②：年齢・障害種別に対応した法律
14	障害者の生活を支える施策③：障害者福祉の関連分野①
15	障害者の生活を支える施策④：障害者福祉の関連分野②
16	障害分野のソーシャルワーク③：障害と共に生きることへの支援
17	障害分野のソーシャルワーク④：家族への支援
18	期末考査

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
学習指導	演習	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　２年　　前期　後期　通年	３０回　６０時間

［担当教員および実務経験］

渡辺　康子
病院・高齢者施設において介護職員として 11.5 年勤務

［授業の目的］

他者への説明・伝達能力向上を目的とし、下級生への検定対策授業の準備、実施を行う。実施後の振り返りから、達成・未達成を自身で確認し、社会人として必要なスキルを身につける。

［授業の方法および概要］

到達目標に従い、それぞれ主体的・実践的な学習を行う。
・秘書検定対策
・手話検定対策
・ピアヘルパー検定対策

［授業の到達目標］

社会福祉士として他者に理解してもらうことの大切さ、難しさ、適切な方法を身につけることができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。
・考査点(75%)
　・課題・提出物・レポート等を得点化する。
・平常点（10%）　授業に積極的に参加し周囲と強調しながら自らの向上を図っている。
・出欠点（15%）　欠席する毎に点数を引いていく。

［使用テキスト・参考文献］

［備考］

［授業計画(内容)］

コマ数	授業の内容
1	・オリエンテーション
2	・チーム分け　授業プラン立案
3	・授業準備（必要テキスト・資料の割り出し）
4	・授業準備（スライド・プリント作成）
5	・授業準備（スライド・プリント作成）
6	・授業準備（模擬授業）
7	・検定対策授業実施

8	・授業準備　授業プラン立案
9	・授業準備（必要テキスト・資料の割り出し）
10	・授業準備（スライド・プリント作成）
11	・授業準備（スライド・プリント作成）
12	・授業準備（スライド・プリント作成）
13	・授業準備（スライド・プリント作成）
14	・授業準備（模擬授業）
15	期末考査（レポート）

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
キャリアデザインⅡ	講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　２年　　前期　後期　通年	３０回　６０時間

［担当教員および実務経験］

田家　愛
一般企業にて販売促進・広報業務、就職支援業務に従事

［授業の目的］

多様な価値観が存在する変化の激しい社会において、自分のキャリアを主体的に考え、自分の得意不得意を理解し、自分が作成したキャリアプランの実現に向けて行動するための力を養うことを目的とする。

自分が目指す分野の現状を理解し、具体的にイメージするとともに、他者に伝えることができる。

また、演習を通して、社会で必要不可欠なビジネスマナーを修得し、他者を受容しながら自分を理解してもらうアサーティブなコミュニケーション能力を身につける。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義・演習を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。

［授業の到達目標］

１．自分自身を客観的にとらえ、自分の得意不得意を理解できる
２．これまでの社会環境、これからの変化について説明できる
３．社会で必要なビジネスマナーを実践できる
４．アサーティブなコミュニケーションを実践できる

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75%)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。
・平常点（10%）　授業に積極的に参加し周囲と強調しながら自らの向上を図っている。
・出欠点（15%）　欠席する毎に点数を引いていく。

［使用テキスト・参考文献］

・働き方の哲学（ディスカヴァー・トゥエンティワン、村山昇、2018 年）
・10 歳でもわかる問題解決の授業（フォレスト出版、苅野進、2017 年）
・知らないとハズカシイおとなのビジネスマナー（日本実業出版社、西出博子）
・アサーション・トレーニング（金子書房、平木典子、2009 年）

［備考］

なし

［授業計画（内容）］

コマ数	授業の内容
1	キャリアを考える必要性と時代背景
2	SNS の注意点
3	ビジネスマナー①（訪問時のマナー）
4	ビジネスマナー②（電話対応）
5	ビジネスマナー③（文書）
6	ビジネスマナー④（冠婚葬祭）
7	学生と社会人の違い、社会人に求められる能力
8	コミュニケーション、対面スキルとは
9～14	社会福祉士が活躍する職場、働き方（職種調べ、発表）
15	期末考査対策（まとめ、復習）
16～25	社会に存在する仕事（仕事調べ、発表）
26	アサーショントレーニング
27	クレーム対応
28, 29	ストレスマネジメント（レジリエンストレーニング）
30	期末考査対策（まとめ、復習）

授　業　計　画（シラバス）

[科目名]	[授業形態]	
ソーシャルアクション	講義・演習	必修　選択

[対象学科・学年・時期]	[授業回数・時間数]
社会福祉科２年　　前期　後期　通年	６０回　１２０時間

[担当教員および実務経験]

白倉　啓子

（高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）

[授業の目的]

１．ソーシャルアクションとは何かを自分の言葉で分かりやすく説明できるようになる

２．実際の活動を通して、ソーシャルアクションに必要な知識・技術、プロセス（過程）を身に付ける

３．学内はもちろん、外部の人達との関わりを通じて、視野を広げるとともに、協調性を身に付ける

４．社会に出た時に即戦力となれるように、自己の成長、チームの成長につなげる

５．継続的な活動につなげていけるように、創意工夫をできるようにする

[授業の方法および概要]

１．コロナ禍での継続的な実施を目指すために、今年度はクラス単位での動き（横のつながり）を中心に進めていく

・社会福祉専攻科２年（SP2）⇒ アドバイザー

・社会福祉専攻科１年（SP1）⇒ 実践：３年目（上級）

・社会福祉科２年（SY2）⇒ 実践：２年目（中級）

・社会福祉科１年（SY1）⇒ 実践：１年目（初級）

２．イフ１号館を拠点としての活動をメインとして計画を進める（外部への出向もOK）

３．各クラスでの動きを報告しあい、アドバイスしあう経験を授業内で積み重ね、４学年の縦のつながりも形成する

[授業の到達目標]

１．楽しみながら活動することができる

２．チームメンバーや周囲の人達との協力を大切にすることができる

３．自主性・主体性・積極性を発揮することができる

４．報告・連絡・相談を確実に行い、許可が出てから動き出すことができる

５．無理をせず、できることから取り組むことができる

６．振り返り（自己評価）を大切にして、次につなげることができる

[成績評価の方法と基準]

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。

・考査点(75％)

・到達目標の修得状況を測るために、毎回の授業の振り返りレポートを点数化する。

・平常点(25%)
　・指定された課題を期限までに実施し、その内容が適切である。
　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

[使用テキスト・参考文献]

・ソーシャル・アクション　ハンドブック作成チーム編『Social Action Handbook（ソーシャル・アクション ハンドブック）-テーマと出会い・仲間をつくり・アクションの方法を見つける39のアイデア』開発教育協会、2017年

[備考]

・準備や実践のスケジュール等の詳細は、グループにより異なる可能性あり。

[授業計画(内容)]

1～2	前期オリエンテーション ～課題作成～
3～4	学科交流会～ソーシャルアクション導入～ SP1企画・運営の実践
5	課題作成発表会
6	前期ソーシャルアクション課題設定
7～8	ソーシャルアクション企画（グループワーク）
9～10	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第１クール①－１）
11～12	ソーシャルアクション実践・振り返り（第１クール①－２）
13～14	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第１クール②－１）
15～16	ソーシャルアクション実践・振り返り（第１クール②－２）
17	前期中間報告会準備
18	前期中間報告会
19～20	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第２クール①－１）
21～22	ソーシャルアクション実践・振り返り（第２クール①－２）
23～24	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第２クール②－１）
25～26	ソーシャルアクション実践・振り返り（第２クール②－２）
27～28	前期の振り返り・まとめ・報告会準備
29～30	前期報告会
31	後期オリエンテーション
32	後期ソーシャルアクション課題設定
33～34	ソーシャルアクション企画（グループワーク）
35～36	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第３クール①－１）
37～38	ソーシャルアクション実践・振り返り（第３クール①－２）
39～40	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第３クール②－１）
41～42	ソーシャルアクション実践・振り返り（第３クール②－２）
43～44	ソーシャルアクション実践・振り返り（第３クール③）
45	後期中間報告会準備

46	後期中間報告会
47～48	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第４クール①－１）
49～50	ソーシャルアクション実践・振り返り（第４クール①－２）
51～52	ソーシャルアクション準備・進捗状況報告（第４クール②－１）
53～54	ソーシャルアクション実践・振り返り（第４クール②－２）
55～56	ソーシャルアクション実践・振り返り（第４クール③）
57～58	後期の振り返り・まとめ・報告会準備
59～60	後期報告会

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	
福祉住環境	講義	必修　選択
［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］	
社会福祉科２年　前期　後期　通年	５２回　１０４時間	

［担当教員および実務経験］

白倉　啓子

（高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）

［授業の目的］

福祉住環境コーディネーターとして、高齢者や障害者などの住まいや住環境整備を考える際、対象者の身体機能や生活状況を十分に考慮し、これらの配慮した福祉用具や住宅構造の検討と調整、情報提供などをできること、さらに住環境整備にかかわる家族や専門職間の調整ができることを目指し、必要とされる知識を習得することを目的とする。

［授業の方法および概要］

・授業前に事前課題を課し、基礎的事項を確認する。
・授業中は、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。
・各章終了ごとに確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。
・検定直前は、複数回の問題演習を通して、知識の定着を図る。

［授業の到達目標］

・少子高齢社会の現状と課題を説明できる。
・地域社会、社会全体の取り組みの必要性を説明できる。
・日本の住環境の問題点を列挙できる。
・福祉住環境コーディネーターの定義と役割を説明できる。
・高齢者の自立生活を支える介護保険制度を取り巻く状況、今後の課題を説明できる。
・障害者総合支援法のしくみと、今後の障害者福祉施策の方向性を説明できる。
・高齢者の健康と自立の方法（食事の改善、運動の目的と方法）を提案できる。
・障害者が生活の不自由を克服する方法を提案できる。
・バリアフリーとユニバーサルデザインの概要を説明できる。
・共用品と福祉用具の定義と役割、導入の留意点を説明できる。
・住まいの整備のための基本技術（段差、床材、手すり、建具、幅・スペース、家具・収納、色彩・照明、インテリア、冷暖房、非常時の対応、維持管理）を説明できる。
・生活行為別（屋外移動・外出、屋内移動、排泄・整容・入浴、清掃・洗濯・調理、起居・就寝）に見る安全・安心・快適な住まいを提案できる。
・ライフスタイルの多様化について説明できる。
・安心できる住生活（高齢者、障害者）を提案できる。
・安心して暮らせるまちづくり（諸法制度含む）について説明できる。
・福祉住環境コーディネーター検定試験３級に合格できる。

［成績評価の方法と基準］
教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。 ・考査点(75％) ・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験を実施する。 ・平常点(25％) ・章ごとの確認テスト（全５回：第１章～第５章）の結果を得点化する。 ・指定された課題を期限までに実施し、その内容が適切である。 ・授業に積極的に参加し、検定合格に向けて努力している。
［使用テキスト・参考文献］
・『福祉住環境コーディネーター検定試験３級公式テキスト（改訂６版)』東京商工会議所、2022年
［備考］
・第47回福祉住環境コーディネーター検定３級を受験する。(2022年7月25日実施予定)

［授業計画(内容)］	
第１章　第１節　少子高齢社会と共生社会への道	
1	人口統計から見た社会構造の変化、高齢者の施策の現状と課題
2	少子化対策の課題と施策の現状①
3	少子化対策の課題と施策の現状②、少子高齢社会の意味
4	ユニバーサル社会の実現の意義
第１章　第２節　福祉住環境整備の重要性・必要性	
5	日本の住環境の問題点
6	福祉住環境コーディネーターとは
第１章　第３節　在宅生活の維持とケアサービス	
7	介護保険制度の考え方、介護保険制度のしくみ①
8	介護保険制度のしくみ②
9	介護保険制度の近年の動向と今後の課題①
10	介護保険制度の近年の動向と今後の課題②、障害者総合支援法について
11	障害者総合支援法のしくみ、障害者総合支援法の近年の動向と今後の課題
12	第１章まとめ：暮らしやすい生活環境をめざして　確認テスト
第２章　第１節　高齢者の健康と自立	
13	健康な一生をおくるために役立つ老化のとらえ方 高齢期の健康度は、自立して暮らせるかどうかが基準
14	元気な高齢者をめざすために必要な食事の改善
15	高齢者の運動の目的と方法
16	高齢者の健康に欠かせないヘルスプロモーションの概念

	自立のレベルごとにみるヘルスプロモーションの実践法
第２章	第２節　障害者が生活の不自由を克服する道
17	障害の種類によって変わってくる自立の方策
	障害に影響を及ぼす種々の要因と自立を阻むもの①
18	障害に影響を及ぼす種々の要因と自立を阻むもの②
	障害をもつ人が充実した在宅生活と社会参加を可能にする要因
19	第２章まとめ：健康と自立をめざして　確認テスト
第３章	第１節　バリアフリーとユニバーサルデザインを考える
20	バリアフリーの誕生と考え方、ユニバーサルデザインの誕生
21	ユニバーサルデザインの考え方、わが国での取り組み
22	ユニバーサルデザインとこれからの社会
第３章	第２節　生活を支えるさまざまな用具
23	生活のなかの問題点と用具の活用
24	共用品①（共用品の定義、共用品の具体例）
25	共用品②（開発から普及までのプロセス、普及標準化に向けて）
26	福祉用具①（福祉用具の定義と役割①）
27	福祉用具②（福祉用具の定義と役割②）
28	福祉用具③（福祉用具の分類）
29	福祉用具④（福祉用具導入の留意点）
30	福祉用具⑤（福祉用具の活用のために）
31	第３章まとめ：バリアフリーとユニバーサルデザイン　確認テスト
第４章	第１節　住まいの整備のための基本技術
32	安全・安心・快適な住まい、段差、床材
33	手すり、建具、幅・スペース
34	家具・収納、色彩・照明、インテリア
35	冷暖房、非常時の対応、維持管理（メンテナンス）
第４章	第２節　生活行為別に見る安全・安心・快適な住まい
36	生活に即した安全・安心・快適な住まい、屋外移動・外出
37	屋内移動（廊下、階段）
38	排泄・整容・入浴
39	清掃・洗濯、調理、起居・就寝①
40	起居・就寝②、妊婦・子どもに対する配慮
41	第４章まとめ：安全・安心・快適な住まい　確認テスト
第５章	第１節　ライフスタイルの多様化と住まい
42	家族形態の多様化と住まい方、暮らし方の多様化
43	生活の継続性と環境への適応力
44	高齢期の多様な住まい方
第５章	第２節　安心できる住生活

45	高齢者や障害者が安心して暮らせる住宅・住環境整備
46	少子化社会に対応した住宅・住環境整備
47	安心で豊かな生活の実現に向けて
第５章　第３節　安心して暮らせるまちづくり	
48	人にやさしいまちづくり
49	まちづくりを進めるための諸法制度
50	第５章まとめ：安心できる住生活とまちづくり　確認テスト
51	福祉住環境コーディネーター検定3級 問題演習
52	終末考査

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
高齢者福祉論	講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　２年　　前期	２３回　４６時間

［担当教員および実務経験］

渡辺　康子
病院・高齢者施設において介護職員として 11.5 年勤務

［授業の目的］

・高齢者福祉の現状、歴史、今度の課題や問題点等テキストを中心に学習し理解を図る。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストや模擬試験を行い、到達目標の修得度を測定する。

［授業の到達目標］

・我が国の高齢者福祉の現状と課題を理解し、説明することができる。
・履修課題のレポート作成し、単位を認定してもらえる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。
・考査点(75%)　到達目標の修得状況を測るために筆記試験により期末考査を実施する。
・平常点（10%）　授業に積極的に参加し周囲と強調しながら自らの向上を図っている。
・出欠点（15%）　欠席する毎に点数を引いていく。

［使用テキスト・参考文献］

・一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編『最新・社会福祉士養成講座２　高齢者福祉（第２版)』中央法規出版、2022 年

［備考］

［授業計画（内容）］

コマ数	授業の内容
1	・オリエンテーション ・高齢者の定義と特性
2	・少子高齢社会
3	・高齢者の生活実態
4	・高齢者を取り巻く社会環境
5	・高齢者福祉の発展
6	確認テスト
7	・介護保険制度の概要
8	・地域支援事業 ・介護保険サービスの体系
9	・高齢者に対する関連諸制度①
10	・高齢者に対する関連諸制度②
11	確認テスト
12	・関係機関と専門職の役割
13	・高齢者と家族に対する支援方法
14	まとめ
15	期末考査
16～23	東北福祉大学通信教育部スクーリング

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	
福祉心理学	講義	必修　選択

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科・福祉心理科　２年　前期　後期　通年	２３回　４６時間

［担当教員および実務経験］

石墨　愛

障害者施設にいて障害者支援員として勤務

［授業の目的］

福祉心理学は、「心理学」と「福祉」の観点から社会的に弱い立場の人々の心の問題を受容し、理解することを目的とする。

また、福祉の世界で人々の「生活の質」を向上させ、幸せの追求を援助する方法を学ぶ。

［授業の方法および概要］

授業前に事前課題を課し、授業内容への関心を高め、基礎的事項を確認する。授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。

［授業の到達目標］

・一人一人の幸せ追求とＱＯＬ（生活の質）の向上に、「福祉心理学」がどのように貢献できるか説明できる。

・「心理学」の理論や手法を応用して、人々の福祉に対処するための方法を解説することができる。

・福祉現場において生じる問題及びその背景、心理社会的課題及び必要な支援について説明できる。

・虐待についての基本的知識を身につける。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。

・考査点(75％)

　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。

・平常点(25％)

　・事前課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。

　・大学のレポート課題を期限までに提出し、その内容が課題に沿ったものである。

　・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

小松紘・木村進編著『現代と未来をつなぐ実践的見地からの心理学』八千代出版、2009年

［備考］

［授業計画（内容）］	
1	導入　福祉心理学とは何か
2	「知る」ことの仕組みと応用
3	「学び、覚える」の仕組みと応用
4	「考え行う」の仕組みと応用
5	「行動」から見た心と個性①
6	「行動」から見た心と個性②
7	「パーソナリティ」から見た心と個性①
8	「パーソナリティ」から見た心と個性②
9	「人間性」から見た心と個性
10	生活環境づくりと心理学の役割
11	人の健康と心理学の役割
12	生涯発達心理学の観点からみる「発達」
13	「障害」の意味と援助のあり方
14	「思春期」の変化と援助のあり方
15	「老年期」の変化と援助の在り方
16～23	東北福祉大学通信教育部スクーリング

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	
ソーシャルワークの基盤と専門職	講義	必修　選択

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　２年　　前期　後期　通年	２３回　４６時間

［担当教員および実務経験］

圓山　里子

障害当事者が代表及び事務局長を務めるNPO法人や障害者サポートの市委託事業においてスタッフとして勤務。また、四年制大学の社会福祉士養成コースにおいて専任教員として勤務。

［授業の目的］

ソーシャルワークの歴史（形成過程）を踏まえた上で、この現代社会の中で相談援助の専門職であるソーシャル・ワーカー（社会福祉士）がどのように「当事者主権」や「エンパワメント」などの理念に基づいた「権利擁護」のソーシャルワーク実践を行っているのについて学ぶ。

［授業の方法および概要］

授業時には、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。加えてグループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。

［授業の到達目標］

１．ソーシャルワークの視点やソーシャルワークのグローバル定義を踏まえ、ソーシャルワークの理念を理解できる。

２.社会福祉士の役割と意義について説明することができる。

３.倫理的ジレンマについて具体的な場面に基づき、判断することができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。

・考査点(75％)

・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。

・平常点(25％)

・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。

［使用テキスト・参考文献］

社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座 6　相談援助の基盤と専門職（第 3版)』中央法規出版、2015年

［備考］

なし

［授業計画（内容）］	
1	ソーシャルワークの定義・構成要素と社会福祉士
2	ソーシャルワークのグローバル定義
3	ソーシャルワークの理念①：当事者主権、尊厳の保持、権利擁護、自立支援
4	ソーシャルワークの理念②：エンパワメント、ノーマライゼーション、ソーシャルインクルージョン
5	レポート課題の確認、ソーシャルワークの倫理
6	倫理的ジレンマの内容
7	倫理的ジレンマにおける倫理的判断過程
8	発表：倫理的ジレンマが生じる場面
9	レポート検討（ピアレビュー）
10	ソーシャルワークの形成過程：ソーシャルワークの源流と基礎確立期
11	ソーシャルワークの形成過程：ソーシャルワークの発展期
12	ソーシャルワークの形成過程：ソーシャルワークの展開期と統合化
13	日本におけるソーシャルワークの形成過程
14	まとめ
15	期末考査
	16～23：東北福祉大学通信教育部スクーリング
16	社会福祉士及び介護福祉士法
17	精神保健福祉士法
18	ソーシャルワークの概念と基盤となる考え方
19	ソーシャルワークの形成過程
20	ソーシャルワークの理念①
21	ソーシャルワークの理念②
22	ソーシャルワークの価値、理念①
23	ソーシャルワークの価値、理念②

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
社会福祉援助技術演習 A	演習　及び　講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科２年　前期　後期　通年	３８回　７６時間

［担当教員および実務経験］

渡辺　康子
病院・高齢者施設において介護職員として 11.5 年勤務

［授業の目的］

社会福祉援助技術演習は、相談援助の知識と技術に係る他の科目との関連性も視野に入れつつ、社会福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、次に掲げる方法を用いて、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことを目的とするものである。当科目はその基礎段階として、自己覚知と他者理解、価値観の理解、及びコミュニケーション技術の修得を重点的な目標とする。

［授業の方法および概要］

具体的な課題や状況について観る・聴く・話す・書く・体験する・考える・感じる・振り返るといった能動的な活動を組み合わせることによって、自分や社会への気づきを得て理解を深め、それらを実践に応用するスキルを身につけることを目指す。

［授業の到達目標］

・人を理解するとはどういうことかを説明できる。
・自分を理解するとはどういうことかを説明できる。
・価値観の違いとはどういうことかを説明できる。
・コミュニケーション技法を活用して会話することができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。
・考査点(75%)
　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。
・平常点（10%）　授業に積極的に参加し周囲と強調しながら自らの向上を図っている。
・出欠点（15%）　欠席する毎に点数を引いていく。

［使用テキスト・参考文献］

・一般社団法人　日本ソーシャルワーク教育学校連盟　編『ソーシャルワーク演習［共通科目］』中央法規出版、2021 年

［備考］

［授業計画(内容)］

コマ数	授業の内容
1	オリエンテーション 社会福祉士の役割
2	日本社会福祉士会倫理綱領
3	日本ソーシャルワーカー連盟の倫理綱領
4	人と環境の交互作用
5	確認テスト
6	面接技法
7	ソーシャルワークの原理・原則
8	ソーシャルワークの発展過程①
9	ソーシャルワークの発展過程②
10	ソーシャルワークの発展過程③
11	ソーシャルワークの発展過程④
12	レポート作成
13	レポート作成
14	まとめ
15	前期期末考査
16	面接の基盤①
17	面接の基盤②
18	面接における基本的応答技法①
19	面接における基本的応答技法②
20	議論を促進する際のコミュニケーション①
21	議論を促進する際のコミュニケーション②
22	アイディアを出して情報を整理する際のコミュニケーション①
23	アイディアを出して情報を整理する際のコミュニケーション②
24	プレゼンテーションを行う際のコミュニケーション①
25	プレゼンテーションを行う際のコミュニケーション②
26	ロールプレイ①　シナリオ作成
27	ロールプレイ②　ロールプレイ練習
28	ロールプレイ③　ロールプレイ本番
29	まとめ
30	後期期末考査
31～38	東北福祉大学通信教育部スクーリング

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	
メンタルヘルス	講義	必修　選択

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　２年　　前期　後期　通年	３０回　６０時間

［担当教員および実務経験］

白倉　啓子

（高齢者施設で相談業務、社会福祉協議会でボランティアコーディネート業務に従事）

［授業の目的］

・最近社会問題となっている職場におけるメンタルヘルスケアの問題について、メンタルヘルスケアおよびストレスの知識、対処方法を学ぶ。

・大阪商工会議所「メンタルヘルス・マネジメント検定Ⅲ種」の合格を目指す。

［授業の方法および概要］

・授業前に事前課題を課し、基礎的事項を確認する。

・授業中は、到達目標に沿って、テキストやプリントを用いて具体例を示しながら講義を行い、内容を修得する。

・各章終了ごとに確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。

・検定直前は、複数回の問題演習を通して、知識の定着を図る。

［授業の到達目標］

・労働者のストレスの現状と職場におけるメンタルヘルスケアについて理解できる。

・ストレスとストレスによる健康障害について説明することができる。

・メンタルヘルス不調の代表的な症状について説明することができる。

・心の健康問題についての正しい知識を説明できる。

・自己保健義務、気づき方、早期対処、軽減方法等、自分自身のメンタルヘルスを守る知識について説明することができる。

・相談機関等、利用できる資源・職種について説明することができる。

・メンタルヘルスの治療方法および留意点について説明することができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による相対評価を行う。

・考査点(75％)

　・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。

・平常点(25％)

　・授業に積極的に参加し、検定合格に向けて努力している。

［使用テキスト・参考文献］

・大阪商工会議所『メンタルヘルス・マネジメント検定試験公式テキスト〔第５版〕Ⅲ種 セルフケアコース』中央経済社、2021年

［備考］

[授業計画(内容)]	
1	第１章　メンタルヘルスケアの意義①
2	第１章　メンタルヘルスケアの意義②
3	第２章　ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識①
4	第２章　ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識②
5	第２章　ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識③
6	第２章　ストレスおよびメンタルヘルスに関する基礎知識④
7	第３章　セルフケアの重要性①
8	第３章　セルフケアの重要性②
9	第４章　ストレスへの気づき方①
10	第４章　ストレスへの気づき方②
11	第４章　ストレスへの気づき方③
12	第５章　ストレスへの対処、軽減の方法①
13	第５章　ストレスへの対処、軽減の方法②
14	第５章　ストレスへの対処、軽減の方法③
15	第５章　ストレスへの対処、軽減の方法④
16	第５章　ストレスへの対処、軽減の方法⑤
17	第６章　社内外資源の活用①
18	第６章　社内外資源の活用②
19	第６章　社内外資源の活用③
20	第６章　社内外資源の活用④
21	第１章まとめ：メンタルヘルスケアの意義　確認テスト
22	第２章まとめ：ストレスおよびメンテナンスに関する基礎知識　確認テスト
23	第３章まとめ：セルフケアの重要性　確認テスト
24	第４章まとめ：ストレスへの気づき方　確認テスト
25	第５章まとめ：ストレスへの対処、軽減の方法　確認テスト
26	第６章まとめ：社内外資源の活用　確認テスト
27	問題演習①
28	問題演習②
29	問題演習③
30	終末考査

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
レポート指導	演習	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　２年　　前期　後期　通年	３０回　６０時間

［担当教員および実務経験］

渡辺　康子
病院・高齢者施設において介護職員として 11.5 年勤務

［授業の目的］

それぞれの分野における社会福祉の課題に対して、適切に自分の意見を表現できるようになること、課題を期日までに確実に実施できるようになることを目的とする。

［授業の方法および概要］

・各教科の授業で示された作成上のアドバイスをもとに、レポートを作成する。
・作成したレポートを完成させ、期日までに東北福祉大学にレポートを提出する。

［授業の到達目標］

・各教科の授業で示された作成上のアドバイスをもとに、レポートを作成する。
・作成したレポートを見直し、修正を加え、完成させることができる。
・期日までに東北福祉大学にレポートを提出することができる。

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が 80%以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。

・考査点(75%)
　・到達目標の修得状況を測るために、各レポートの提出日・書式・構成を得点化して評価する。
・平常点（10%）　授業に積極的に参加し周囲と強調しながら自らの向上を図っている。
・出欠点（15%）　欠席する毎に点数を引いていく。

［使用テキスト・参考文献］

・『レポート課題集 A-Ⅱ 社福・精保指定科目編 2022』東北福祉大学通信教育部、2022 年
・上記課題集に記載された参考文献

［備考］

なし

［授業計画(内容)］	
1	レポート学習オリエンテーション
2	東北福祉大学サイトサインイン　メール登録
3	児童・家庭福祉　１単位目　客観式
4	児童・家庭福祉　２単位目　レポート
5	福祉心理学　２単位目　レポート
6	福祉心理学　２単位目　レポート
7	社会学と社会システム　１単位目　客観式
8	社会学と社会システム　２単位目　レポート
9	社会学と社会システム　２単位目　レポート
10	高齢者福祉　１単位目　客観式
11	高齢者福祉　２単位目　レポート
12	高齢者福祉　２単位目　レポート
13	ソーシャルワークの基盤と専門職　２単位目　レポート
14	ソーシャルワークの基盤と専門職　２単位目　レポート
15	ソーシャルワーク演習　１単位目　事前課題　レポート
16	ソーシャルワーク演習　１単位目　事前課題　レポート
17	社会福祉原論Ａ　１単位目　客観式
18	社会福祉原論Ａ　２単位目　レポート
19	社会福祉原論Ａ　２単位目　レポート
20	障害者福祉　１単位目　客観式
21	障害者福祉　２単位目　レポート
22	障害者福祉　２単位目　レポート
23	ソーシャルワーク演習　２単位目　事後課題
24	ソーシャルワーク演習　２単位目　事後課題
25	ソーシャルワークの基盤と専門職　１単位目　客観式
26	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）　１単位目　客観式
27	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）　２単位目　レポート
28	ソーシャルワークの基盤と専門職（専門）　２単位目　レポート
29	レポート提出状況確認、成績表・成績管理
30	次年度東北福祉大学正科生編入手続き準備

授　業　計　画（シラバス）

［科目名］	［授業形態］	必修　選択
総合復習	講義	

［対象学科・学年・時期］	［授業回数・時間数］
社会福祉科　２年　　後期	１５回　３０時間

［担当教員および実務経験］

渡辺　康子
病院・高齢者施設において介護職員として 11.5 年勤務

［授業の目的］

２年間で学んだ教科を中心に国家試験に関わる基礎的知識の習得を目指す。

［授業の方法および概要］

到達目標に沿って、グループワーク等のアクティブラーニング手法を用いて、内容の理解を深める。その上で、確認テストを行い、到達目標の修得度を測定する。

［授業の到達目標］

・次の各項目について国試の受験科目の必要な知識を習得できる。
①社会福祉　②高齢者福祉　③障害者福祉　④児童・家庭福祉　⑤虐待
⑥心理　⑦ソーシャルワーク

［成績評価の方法と基準］

教科出席率が 80％以上の者に対して、以下の配点による総合点を算出し、学内共通の基準による絶対評価を行う。
・考査点(75％)
・到達目標の修得状況を測るために、筆記試験により期末考査を実施する。
・平常点(10％)
・授業に積極的に参加し、周囲と協調しながら自らの向上を図っている。
・出席点（15％）
・欠席ごとに減点。

［使用テキスト・参考文献］

・いとう総研資格取得支援センター編『社会福祉国試ナビ 2022』中央法規・2021 年

［備考］

［授業計画(内容)］	
1	社会福祉
2	高齢者福祉・介護保険法
3	障害者福祉・障害者総合支援法
4	児童・家庭福祉
5	公的扶助
6	振り返り・確認テスト
7	虐待・権利擁護
8	更生保護
9	就労支援
10	行政計画
11	医学・介護
12	心理
13	ソーシャルワーク

14	振り返り・確認テスト
15	期末考査